

第1章 計画策定にあたって

1 計画策定の背景と目的

かつて明治天皇が行幸するほど観梅の名所であった小向梅林は、都市化の進展から往年の面影を見ることができず、御幸公園に明治天皇臨幸御観梅跡碑とともに小さな梅林が当時の名残を留めています。

明治22（1889）年に町村制が施行された際、小向村など8村が合併した新村の名称は、明治天皇の行幸にちなんで御幸村となりました。

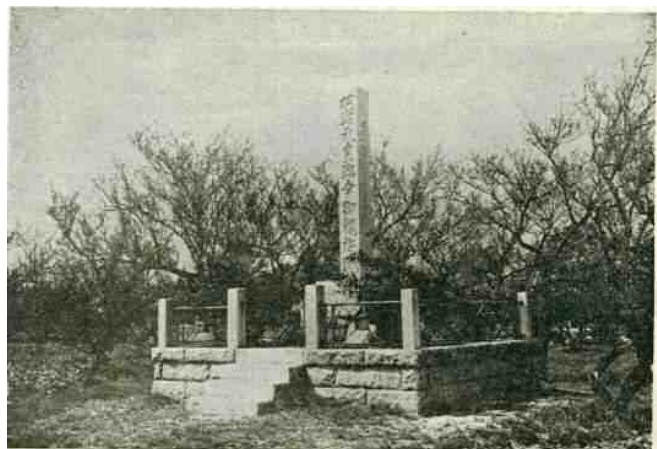
大正13（1924）年に、御幸村、川崎町、大師町が合併し、人口約4万8千人の川崎市が誕生しました。その後、川崎市は市域を拡大し、昭和47（1972）年に政令指定都市となりました。「幸区」の名称は、その時の区制施行で、「御幸村」の村名を継承し、「幸多い」地域になって欲しいという地域の人々の願いを込めて名付けられました。

天皇の行幸から「御幸」の名称ができ、「幸区」の名称につながった梅林であり、かつて産業として地域を潤し、多くの人々に愛された梅林です。

幸区の魅力であり資源である梅林を市民と復活させるとともに、御幸公園が憩いの場、集いの場となり、地域コミュニティの活性化につながることをめざし、市制100周年である平成36（2024）年度に向けて事業を計画的に進めていくため、梅香事業推進計画を策定します。



御幸村の明治天皇行幸の碑



『川崎市史 通史編3』より

2 計画期間

本事業は、市制 100 周年にあたる平成 36（2024）年に向けて取組を進めていきますが、計画期間は本市の総合計画に合わせ、平成 37（2025）年度までとします。また総合計画の見直しに合わせて、必要に応じて本計画についても見直しを行います。

御幸公園梅香事業計画期間

	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)	平成32年度 (2020)	平成33年度 (2021)	平成34年度 (2022)	平成35年度 (2023)	平成36年度 (2024)	平成37年度 (2025)
計画期間	御幸公園 梅香事業 推進会議 の発足	計画の策 定						区制50周 年		市制100 周年	



川崎市総合計画の計画期間（実施計画）

平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)	平成30年度 (2018)	平成31年度 (2019)	平成32年度 (2020)	平成33年度 (2021)	平成34年度 (2022)	平成35年度 (2023)	平成36年度 (2024)	平成37年度 (2025)
※実施結果を盛り込む 第1期 実施計画			第2期 実施計画（想定）				第3期 実施計画（想定）				
H26～H29			H30～H33				H34～H37				

3 川崎市総合計画における事業の位置付け

「川崎市総合計画」は、平成 28（2016）年 3 月に「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき」（基本構想）の実現をめざし策定したもので、社会経済状況の変化等に柔軟に対応していくために、今後概ね 10 年間を対象として、5 つの基本政策と 23 の政策からなる「基本計画」と具体的な取組を定めた「実施計画」の 3 層で構成されています。

御幸公園梅香事業は、幸区の実施計画における「地域資源を活かしたまちづくりの推進」に、「御幸公園の魅力向上事業」として位置付けられています。



地域の課題解決に向けた主要な取組

● 地域資源を活かしたまちづくりの推進

- ✓ かつて明治天皇が観梅のために行幸したという、梅の名所としての地域の歴史を踏まえ、御幸公園周辺において、区民との協働による取組を進めます。
- ✓ 区内の豊かな緑や、文化・芸術・歴史などの地域資源を活かしながら、区民の地域への愛着と誇りを育んでいくため、さまざまな主体との協働・連携を通して、賑わいと彩り豊かな、魅力あるまちづくりを進めます。

事業名	現状	事業内容・目標		
	平成 26～27 (2014～15)年度	平成 28(2016) 年度	平成 29(2017) 年度	平成 30(2018) 年度以降
御幸公園の魅力向上事業 公園内の散策路等の整備や、区民との協働による「御幸公園梅香(うめかおる)事業」を推進し、市制 100 周年に向けて、公園周辺の魅力向上を図ります。	●梅林の整備方針の検討 ●御幸公園梅香事業の推進 ・「梅香事業推進計画」案の検討	●御幸公園梅香事業の推進 ・梅林の復活や植樹の取組の推進 ・地域住民や学校等と連携した取組 ・「梅香事業推進計画」の策定	●御幸公園梅香事業の推進 ・梅林の復活や植樹の取組の推進 ・地域住民や学校等と連携した取組 ・歴史・文化に関する講座の実施	事業推進

川崎市総合計画 実施計画【幸区】より

うめかおるコラム 「梅の原産地」

梅の原産地は諸説ありますが、中国が有力のようです。中国では3000年以上前から梅の実の加工品を薬用として利用していたようで、中国の古い薬物書しんのうほんぞうきょうの「神農本草経」に生薬としての効用が説かれています。

